

まなび通信

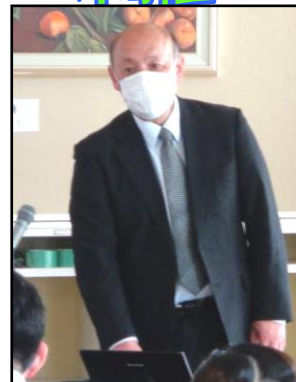
- ◆ 最上教育事務所研修通信
第 2 号
- ◆ 令和3年 6 月 10 日
- ◆ 最上教育事務所指導課

「子どもの育ちと学びをつなぐ研修会」の開催

昨年度コロナ禍で開催ができなかった「子どもの学びと育ちをつなぐ研修会」を、5月18日（火）に行いました。幼保・小・中の先生方が共に学ぶ研修会で、山形大学の野口徹教授を講師にお迎えしました。

子どもの気づきを大切にすること、言語化することなど、子どもの学びを資質・能力ベースで見取ることの大切さを実感する機会となりました。

また、演習では、映像を通して子どもの姿を見極め、分析と言語化を行いました。複数の目で子どもの姿を見取ることによって精度が高まりました。教員の確かな見取りが指導力向上につながることを確認できる研修となりました。



～講義・演習よい～

Check!
👉

パフォーマンスから資質・能力を評価

◇子どもの資質・能力の育成状況を見取る

子どもの姿から見て取れる具体的な資質・能力を言語化し、それを共有していくことで子どもの育ちを見取っていきます。

◇指導者の見取る力を向上させる

一人でなく全職員で、子どものよさや育ちを伝え合うことで見取る力が高まっていきます。

【2つのドキュメンテーション】

児童生徒自身の

ドキュメンテーション

何かに熱中している姿や興味を持っている姿を写真などで記録に残すことで、児童生徒が言葉を書いて示したり、友達にそれを紹介したりできます。

指導者のドキュメンテーション

丁寧に見なければ見えない、子どもの探究心や学びをドキュメンテーションで可視化していくと、共有したときに、新たな気づきや自分になかった視点を持つことになり、見取る力が向上していきます。

参加者の感想よい

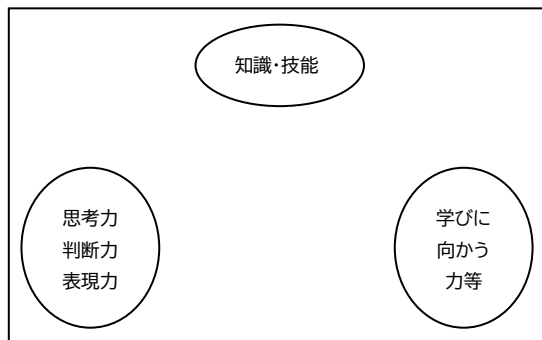
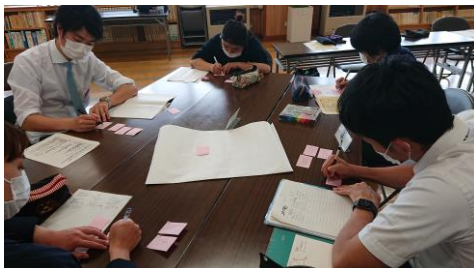
- ・ 自分が感じたことを言葉で伝え合うことで、考えていたことが明確になる研修会でした。校種の異なる先生方と話をすることができて、見方を広げることができたと思います。
- ・ 子どもたちの様子を見て、どんな資質・能力が育っているかを話し合うことで、より良い指導計画が立てられることは、とても勉強になりました。子どもたちから発信される学びたい気持ちを受け止めて、伸ばしていけるような保育、教育をしていけるようにしたいです。
- ・ 校種を越えての研修だったので良かったと思いました。今年から幼保小連携の担当にもなっていますが、幼保の考え方、その中での育ち、できること、力があることなど、これまで知らなかったことが多かったです。「つきたい力」という言葉もありますが、しっかり見取ること、時代を切り拓く力と合わせながら進めていきたいと感じました。

演習を紹介！

準備物＊大判用紙、付箋（一色）、ペン、映像など

- ① 映像を視聴する。（13分）
 - ・10分のテレビ番組映像（山形南小学校の総合的な学習の時間「山形丸ごとマラソンに挑戦」のニュース映像）。
- ② 映像を見ながら、3つの資質・能力「知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力等」を視点にし、付箋にメモを残していく。（3分）
 - ・番組を視聴しながら、どの場面の児童の姿からそれらを見取れるか。

- ③ 4人グループになり、順番を決める。



- ④ 順番に、記入した付箋を伝えながら大判用紙に貼る。（10分）
 - ・同じ場面で、同じ資質・能力を記載した場合、記入した付箋をまとめていく。
 - ・違う資質・能力を記載した場合、根拠を説明しながら付箋を貼っていく。

走り方について考えを言っている場面は、「知識」に当てはまるかな？



走り方を継続して実践しているから、「学びに向かう力」でもいいのかも！



- ⑤ 付箋のまとまりを、一文で言語化（ラベリング）。（3分）

- ⑥ 他グループと共有。（5分）



- ・グループで1名説明者を決める。
- ・他のメンバーはほかのグループで説明を聞く。
- ・説明を聞いた後に、グループに戻り、ほかのグループの見取りを共有し、さらにグループの意見を深める。

児童の姿から、たくさんの資質・能力に気がつけたね

☆校内のちょっとした時間でいかがですか☆

- ・テレビ番組の視聴を、授業参観（授業参観の動画）に置き換える。
- ・空き時間、放課後などに集まって3つの資質・能力の項目に従って付箋を貼りながら、言語化する。又は、写真などを活用して、その場面を振り返る。
- ・共通する見取りは自信になり、新たな見取りは視点を広げることに。